



全国私立保育園研究大会に参加して



理事 大木 君江

7月4日から6日に開催された第59回全国私立保育園研究大会が成功裏に終わり、2年前から準備されていた実行委員会の皆様方や関係された役員・事務局の皆様方大変お疲れ様でございました。

大会二日目の第Ⅰ群の分科会は民保協の研修部会が中心となりテーマに沿った講師の先生の依頼、役割分担を決めるまで、大変苦勞をされていたのを身近に感じておりましたので、どの分科会も充実した発表や討議が展開され、著名な講師の先生方の講義を受けられたことと思います。

私はこの分科会の座長を初めて体験させていただきました。「心の育ちと異年齢児保育」のテーマのもと、提案者の発表と助言者であられる新宿せいが保育園の園長藤森先生の講義をお聞きし、終了した際には大きな安堵感がふつふつと沸き上がりました。この安堵感には無事に分科会が終了できたことと、自園が実践してきた異年齢児保育の方法が間違っていなかったのだらうと、確信までには至らずとも納得できる安堵感でありました。

この分科会に参加された方々の中で異年齢児保育を実践されている保育園は、さらにこの保育を深めようと感じたことでしょうし、異年齢児保育に関心を持たれている保育園では、取り組む価値があると認識されたのではないかと思われました。前日の澤口俊之先生の特別講演を少し聞く時間が得られ、その折に“EQ”という言葉に触れ、また分科会の講師の先生からも同様の話を聞くことができました。“EQ”とは、心の知能指数と言われ、目的や夢に向かって社会の中で協調的に生きる能力だそうです。この能力が乳幼児期に育つと言われました。「心の育ちと異年齢児保育」…異年齢児が交流するから子どもに様々な心が育つことを再認識しました。

私の家の脇には幅が1メートルほどの沢が流れています。保育園の出退勤の時いつも車の右側から水辺の水芭蕉が目に入ります。前園長から頂いたもので、苗の1株が数株に増え毎年白い花を咲かせます。花の時期、葉の時期、実をつける時期、葉が枯れる時期も、毎朝毎夕自然と目に入り「私は植物を実生から育てるのが好きだ。」と言った言葉が常に頭をよぎります。あれから30年が経過し、今は故人となられた前園長のこの言葉は、「私は乳児から育てることが好きだ、乳児から大切に育てることが好きだ」と、目に見える形で教えてくださっていると思い、忘れないようにしてきました。園長になり24年が経ち「子どもたちの心を育てなさい」「保育の中身を充実させなさい」と課題をもらい、子どもたちの心を育てるためには、保育の中身を充実させる、すなわち保育の質を向上させるためには、どのような方法で取り組むのか、試行錯誤しながら、職員とともにこの仕事に打ち込んできました。

今回研究会に参加する機会が与えられ、改めて自分が保育に携わってきた路を振り返り、私のこの路の終わりに近づいた今、『これで良かったんだ』と自信が得られた大きな研究大会でした。